

宝塚歌劇における男役の文末表現が観客に与える印象

宮内唯¹ 木山幸子²¹ 東北大学文学部言語学研究室, ² 東北大学大学院文学研究科言語学研究室

yui.miyauchi.tohoku@gmail.com; skiyama@tohoku.ac.jp

宝塚歌劇は、小林一三によって創設された。その大きな特徴に、出演者が女性のみであることが挙げられる。出演者の女性たちは男役（男性役）と娘役（女性役）に分かれ、男役は男性の役柄を、娘役は女性の役柄を主に演じる。男役は女性でありながら、自身の性別とは異なる男性を演じる。女性が男性の登場人物を演じる上で、その登場人物の印象を大きく左右するもののひとつがセリフである。多くのテレビドラマ等では、登場人物の性別は役者の性別と一致しているのに対して、宝塚歌劇において男性の登場人物のセリフを言うのは女性の役者である。登場人物の性別と役者の性別が一致していない状態のセリフは、性別が一致している状態のセリフとは異なる印象を観客に与えると考えられる。

金水 (2003) は、ある特定の言葉遣い（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等）を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉遣いを思い浮かべることができるとき、その言葉遣いは「役割語」であるという。男性と女性の話し方の違いは日本語母語話者に共有して認識されており、さまざまな作品に利用され、「役割語」としての役割を果たしている。宝塚歌劇の作品は、その顕著な例の一つといえる。男役のセリフには男性語が多く用いられ、女役のセリフには女性語が多く用いられる。有泉 (2007) は、男性用文末形式（男性形式）と女性用文末形式（女性形式）の区別を「文末形式のジェンダー」と呼び、自分の性別と一致しない、

すなわち「クロス・ジェンダー」の文末形式が会話の聞き手にもたらす印象を検討した。その結果、男性形式を用いる場合、女性話者の方が男性話者よりも男性関連特性である横暴性の印象を強く与えたが、女性形式を用いる場合では、男性話者と女性話者間に女性関連特性の印象の差は見られなかったという。すなわち、文末形式が話者の性別と一致しないことによって、文末形式のジェンダーと一貫した印象が強まること（文末形式のクロス・ジェンダー効果）が、男性形式を用いる女性話者においてのみ支持された。

本研究では、宝塚歌劇特有の男性の登場人物のセリフ（男役のセリフ）に焦点を当て、女性の演じる男性役が観客に与える印象を明らかにしたい。長年多くのファンを獲得してきた宝塚歌劇では、男性役者が男役のセリフを言う場合に比べ、女性役者が男役のセリフを言う場合、ポジティブな男性性がより強調されるのではないだろうか。つまり、ポジティブな男性性においてより強い文末形式のクロス・ジェンダー効果が現れると予測する。また、女性役者が男役のセリフを言う場合は、ポジティブな女性性は高まるが、ネガティブな女性性は低くなるのではないか。宝塚歌劇のファンの多くが女性であることも考えると、セリフを聞く観客が男性か女性かによって、文末形式のクロス・ジェンダー効果の大きさも異なると予測する。

方法**調査参加者**

日本語を母語とする大学生・大学院生 79 名（うち男性 38 名、平均年齢 21.2 歳）が参加した。

質問紙

調査は、セリフと印象評定項目によって構成される質問紙を用いて行った。セリフは、宝塚歌劇の脚本や DVD（宝塚歌劇団, 2013, 2014, 2015a, 2015b, 2015c, 2016）から、男性専用終助詞（「さ」「ぜ」等）が使われる実在の男役のセリフを 40 文（「12 あんなもの簡単に見つかるさ」「22 ああ見えてきたぞ」等）、女性専用終助詞（「わ」「の」等）が使われる実在の女役のセリフを 40 文（「53 人の心がつかめないわ」「70 理解するよう努力するのよ」等）選定した。文末表現の効果を抽出するため、文の内容は男性と女性双方に言える中立的なものを選んだ。

印象評定項目は、有泉（2007）の因子分析によって抽出された「横暴性（男性関連否定特性）」「創造性（男性関連肯定特性）」「消極性（女性関連否定特性）」「感受性（女性関連肯定特性）」の因子に対応して選定した。各因子に高く寄与する項目を 2 つずつ取り上げ、印象評定項目として使用した。

「横暴性」に高く寄与する「傲慢な」「攻撃的な」、
「創造性」に高く寄与する「進歩的な」「発明の才ある」、
「消極性」に高く寄与する「恥ずかしがりの」「心配性の」、
「感受性」に高く寄与する「やさしい」「感じの良い」の計 8 項目であった。

手続き

各参加者は、セリフを読み、そのセリフが各印象評定項目にどの程度ふさわしいか 7 段階のリカー特尺度で評価した。セリフを言う役者ではなく、役柄について想像して回答するよう求めた。

分析

線形混合効果モデル（linear-mixed effect model）によって、各印象評定項目において、印象評定得点における性差を分析した。独立変数（固定要因）は、文末形式の性別（男性形式、女性形式）、役者の性別（男性役者、女性役者）、参加者の性別（男性、女性）の 3 つを含めた。ランダム要因として、参加者とセリフを含めた。R version 3.5.0 (R Core Team, 2018) 上でパッケージ lme4 (Bates, Maechler, Bolker, & Walker, 2015) と lmerTest (Kuznetsova, Brockhoff, & Christensen, 2017) を使用した。

結果

セリフの男性文末表現と役者の性差におけるクロス・ジェンダー効果を検討するために、文末形式、役者の性別、参加者の性別の 3 要因の効果のうち、とくに文末形式と役者の性別が関わる交互作用に注目する。上述の 8 種の印象評定項目のうち文末形式と役者の性別の 2 次の交互作用が見ら

表 1 印象評定の平均値と標準偏差

印象特性	男性形式				女性形式				
	男性役者		女性役者		男性役者		女性役者		
	男性参加者	女性参加者	男性参加者	女性参加者	男性参加者	女性参加者	男性参加者	女性参加者	
	M (SD)								
男性関連特性	横暴性 傲慢な	4.52 (1.65)	4.11 (1.73)	4.58 (1.56)	4.42 (1.47)	3.22 (1.59)	2.95 (1.65)	3.42 (1.63)	3.25 (1.43)
	横暴性 攻撃的な	4.21 (1.68)	4.09 (1.76)	4.20 (1.71)	4.35 (1.52)	3.03 (1.72)	2.76 (1.73)	3.06 (1.74)	2.97 (1.65)
創造性	進歩的な	3.67 (1.72)	3.49 (1.66)	3.78 (1.67)	3.68 (1.61)	3.50 (1.71)	3.41 (1.67)	3.61 (1.68)	3.31 (1.57)
	発明の才ある	3.63 (1.86)	3.63 (1.86)	3.91 (1.74)	3.85 (1.59)	3.13 (1.70)	2.93 (1.64)	3.32 (1.66)	3.14 (1.55)
女性関連特性	消極性 恥ずかしがりの	2.03 (1.29)	2.15 (1.45)	2.10 (1.47)	1.93 (1.26)	3.00 (1.70)	2.91 (1.69)	3.12 (1.78)	2.73 (1.61)
	消極性 心配性の	2.49 (1.59)	2.46 (1.56)	2.84 (1.74)	2.63 (1.53)	3.45 (1.80)	3.64 (1.84)	3.86 (1.83)	3.58 (1.68)
感受性	やさしい	3.22 (1.48)	2.86 (1.43)	3.14 (1.43)	3.19 (1.34)	4.05 (1.72)	3.79 (1.70)	3.94 (1.62)	4.06 (1.55)
	感じの良い	3.91 (1.63)	3.51 (1.67)	3.76 (1.46)	3.85 (1.50)	4.26 (1.63)	4.10 (1.58)	4.36 (1.50)	4.31 (1.50)

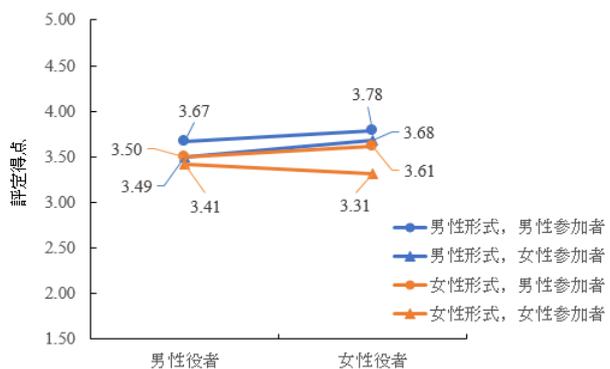


図1 「進歩的な」への印象評定の性差

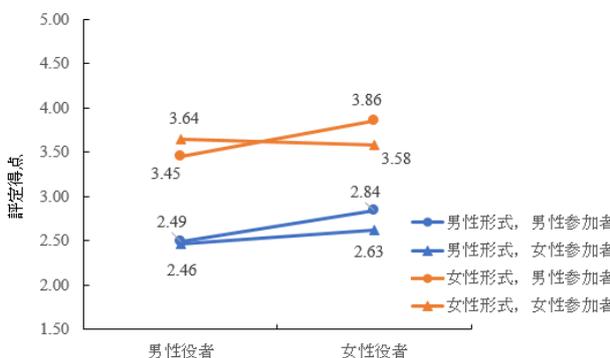


図2 「心配性の」への印象評定の性差

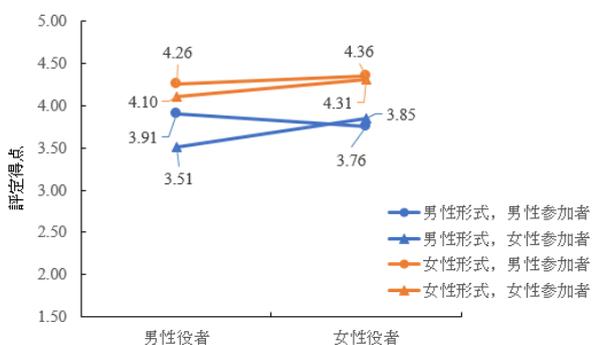


図3 「感じの良い」への印象評定の性差

れたのは、男性関連肯定特性の1つである「進歩的な」($\beta = -0.173, p = 0.002$; 図1), 女性関連否定項目の「心配性の」($\beta = -0.129, p = 0.012$; 図2)であった。また、女性関連肯定項目である「感じの良い」では、文末形式、役者、参加者の性の3次の交互作用が見られた($\beta = 0.239, p = 0.002$; 図3)。

考察

本研究では、宝塚歌劇の男役のセリフの文末表現のクロス・ジェンダー効果に着目し、そのセリフを男性役者が言う場合に観客に与える印象と、女性役者が言う場合に観客に与える印象の違いを検討した。また、観客が男性か女性かによって印象の受け方が異なるかどうかについても検討した。

まず、男性関連肯定特性の「創造性」に高く寄与する「進歩的な」の項目において、役者の性差の影響が見られた。男性文末形式のセリフ、つまり男役のセリフについては、男性役者が言うより女性役者が言うほうが、進歩的な印象が高まることが示された。仮説の通り、セリフの文末形式が役者の性別と一致しないことによって、文末形式のジェンダーと一貫した印象が強まるという文末形式のクロス・ジェンダー効果を実証した。宝塚歌劇の男役に関しても、女性が男性形式のセリフを演じることによって、男性が演じるよりも男性らしさのポジティブな面が強調されることが示唆される。また、この男役のセリフにおける文末形式のクロス・ジェンダー効果については、男性の参加者と女性の参加者とで差があることを予測したが、参加者の性差の影響は有意ではなかった。観客が男性であっても女性であっても、女性役者による男性形式のセリフの演技により、その肯定的な男性らしさの高まりを感じとっているのかもしれない。

また、女性関連肯定特性である「消極性」に寄与率の高い項目である「心配性の」においてもクロス・ジェンダー効果が見られた。男役のセリフについて、男性役者が言うより、女性役者が言うほうが、より心配性の印象評定が高くなった。仮説とは異なり、ネガティブな印象をもつ女性関連のジェンダー特性は、女性役者においてより強く評価された。この結果には複数の解釈の可能性が考えられるが、「心配性である」という印象が高ま

るということは、どこか不安定で儂げな印象が高まるということにもつながるのかもしれない。肯定的に解釈すれば、宝塚歌劇においては、この不安定さや儂さが、観客の心をとらえているのではないかとも考えられる。

さらに、女性関連肯定特性の「感受性」に高く寄与する項目である「感じの良い」においては、セリフ、役者、参加者の性差の3次の交互作用が認められた。男性形式の男役のセリフについて、男性参加者は、女性役者が言うより男性役者が言うほうが感じが良いという印象を持つようだ。反対に女性参加者は、男性役者が言うより女性役者が言うほうが、より感じが良いと評価している。仮説の通り、男性のセリフを女性役者が演じたほうが肯定的に捉えられるということが、男性参加者より女性参加者においてより強く認められた。男性の観客は、演劇において女性役者が男性専用文末形式を使うことに対して、女性の観客より強い違和感を覚えるのかもしれない。男性より女性のほうが女性役者による男性のセリフを演じることに肯定的な評価を与えているということは、宝塚歌劇のファンの大半が女性であることの背景にある一つの理由であるとも考えられる。

本研究は、クロス・ジェンダー効果を巧みに取り入れて成功を収めてきた演劇形態ともいえる日本の宝塚歌劇を取り上げ、セリフの男性性が観客に与える影響について検討した。男性専用形式を女性役者が演じることの魅力は、男性の観客より女性の観客のほうがより強く感じていると結論できよう。演劇の魅力は、本来的には役者自身の魅力、演技、舞台装置などに依るところが大きいと考えられるが、セリフのクロス・ジェンダー効果も、観客が感じる魅力に一役を担っている可能性

を示唆した。

謝辞

本研究は、東北大学男女共同参画推進センター平成29年度スタートアップ研究費および研究スキルアップ経費(代表研究者:第二著者)による助成を受けて実施された。

引用文献

- 有泉優里 (2007) 「文末形式のジェンダーが話者についての印象に及ぼす影響」『社会言語科学』9(2): 3-16. 社会言語科学会.
- 金水敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』東京: 岩波書店.
- 金水敏 (2007) 『役割語研究の地平』東京: くろしお出版.
- 小島隆次・井手菜月 (2017) 「セリフを介した登場人物の印象評価に及ぼす演者の性別の効果～宝塚歌劇作品「エリザベート」を用いた検討～」『日本認知科学会第34回大会発表論文集』1102-1105.
- 宝塚歌劇団 (2013) 『ルパン-ARSENÉ LUPIN-』『Fantastic Energy!』[DVD], 兵庫: 宝塚クリエイティブアーツ.
- 宝塚歌劇団 (2014) 『エリザベート ('14年花組)』[CD], 兵庫: 宝塚クリエイティブアーツ.
- 宝塚歌劇団 (2015a) 『Brilliant Dreams+NEXT VOL.4 望海風斗』[DVD], 兵庫: 宝塚クリエイティブアーツ.
- 宝塚歌劇団 (2015b) 『大海賊』『Amour それは…』[DVD], 兵庫: 宝塚クリエイティブアーツ.
- 宝塚歌劇団 (2015c) 『ガイズ&ドールズ』[CD], 兵庫: 宝塚クリエイティブアーツ.
- 宝塚歌劇団 (2016) 『ル・サンク Vol.172「こうもり」「THE ENTERTAINER!」<星組>』兵庫: 宝塚クリエイティブアーツ.